

## 「異物感の軽減と機能の回復を求めたパーシャルデンチャー」

講師 中村 八大

歯科補綴治療を希望する患者さんは、齶蝕や欠損を有する口腔内に対して、審美性や機能性および生体親和性に優れた審美補綴治療に対する要望が高度化・多様化してきた。とくに、義歯に対する問題のなかには、義歯装着に対する異物感や発音に対する違和感さらにはインプラント治療による不安感などから付加価値のある義歯が求められるようになってきた。

今回紹介する機能美デンチャーは、失われた口腔の形態回復と審美性の改善をコンセプトに開発されたシステムであり、義歯の異物感を軽減し、発音にも影響の少ない義歯設計となっている。そこで、ラボサイドからのアプローチについて、臨床例を用いて製作術式を解説する。

【講師略歴】中村 八大(なかむら はちだい)

1972年 東京都生まれ

1992年 新東京歯科技工士学校卒業

1992年 東京歯研（現：テクニカルセンター）入社 現在に至る

スタディーグループ:遊学会 会員／機能美デンチャーインストラクター／ARC 実習コース受講